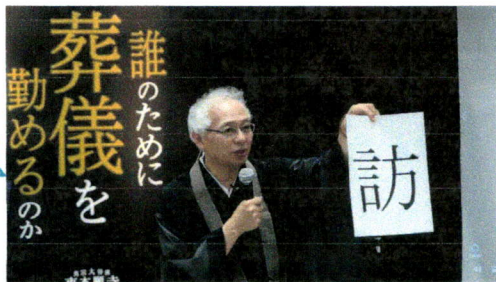


第183回徳成寺 寺ともサービスデー

福祉講座 「誰のために葬儀を勤めるのか」



海 法龍先生：1957年熊本県天草市生まれ。大谷大学文学部真宗学科卒業。大谷専修学院卒業。現在、神奈川県横須賀市の真宗大谷派・長願寺住職。真宗大谷派首都圏教化推進本部員。著書に「報恩の生活」（東本願寺出版）、「苦悩の海をゆく」（東京真宗同朋の会）など。東京の真宗会館で大谷派教師養成の教師検定取得コースの講師も務められている。当寺の副住職もかつて海先生の講義を受講して晴れて大谷派教師となることができた。

海先生からのメッセージ

先日、ある新聞のオピニオンのコーナーで『死について』という特集がありました。その中で26歳の男性の方が、祖父の葬儀の時に感じたことが投稿してありました。祖父が亡くなり、生きるものはいつか死ぬとわかっているのに、どうしようもなく悲しくて、私を支えていた何かが抜け落ちたようでした。しかし葬儀の時、新しい気づきがありました。遺影を見て、その場に残された家族は祖父が残してくれた財産なのだと思います。命が確かにつながっていることを強く感じたのです。死とは全てがなくなってしまうことのように感じますが、死んでも生きるものが確かにあります。読みながら「残された家族は祖父が残してくれた財産」という言葉にハッとさせられました。お金に換算できない財産があるとおっしゃいます。それは私の存在であり、隣のあなたの存在です。ウクライナの人やロシアの人、亡くなっていった人たちも、私たち一人ひとりが人類の財産であり、宝なのでしょう。私たちは日ごろ、何を自分の宝としているのでしょうか。もしかすると、自分の価値観・考え方を最上のものとして、つまりそれを宝にして過ちを犯し続けているのかもしれない。今回の徳成寺様の福祉講座で、葬儀、死ということを通して、私たちの生まれ、生きていることの意味を、一緒に尋ねて参りたいと思っています。

高松市 徳成寺 参加費無料 申込み 821-6348

2019年に首都圏で開催された「第五回エンディング産業展」におけるブースセミナーにおいて、上記テーマで講演された海先生をお招きして、本当に故人を偲ぶとはどういうことかを一緒に考えて参りたいと思います。どうぞお電話で申し込みください。

